

# 日本小児歯科学会理事長挨拶

## 日本小児歯科学会九州地方会 創立30周年を祝して

一般社団法人 日本小児歯科学会 理事長  
鹿児島大学大学院医歯科学総合研究科 教授 **山 崎 要 一**



日本小児歯科学会九州地方会におかれましては創立30周年を迎えられ、謹んでお慶び申し上げます。

九州地方会は九州7県と沖縄県より構成されており、その合計面積は44,467km<sup>2</sup>となります。これは日本の総面積378,000km<sup>2</sup>の12%であり、8県の合計で1,472万人が生活する地域におきまして、5大学の歯学部とご開業の先生方が小児歯科医療を実践される重要な役割を担って来られました。

これはひとえに九州地方会に所属されている570名にも及ぶ会員の皆様と、さらにその中心としてご活躍されている25名の指導医を含む150名の専門医の先生方のご努力の賜物と拝察致します。

さて、九州地方会の設立総会ならびに第1回大会は、昭和58年10月15日に福岡歯科大学で開催されました。偶然ではありますが、昭和58年は小生が九州大学を卒業して小児歯科学教室の大学院生となった年でもあり、卒後間のない時期に発足したばかりの地方会を経験したため、その記憶は鮮明に残っております。まさに、九州地方会の歴史とともに小生も小児歯科の世界を歩んで来たと感じております。

発足当時の地方会大会は、土曜日に学会、日曜日に5大学の医局員と九州小児歯科集談会の先生方による親睦ソフトボールで構成されておりました。第1回地方会で最も印象に残っているのは、福岡歯科大学で開催されたソフトボール準決勝の九州大学vs.鹿児島大学の試合です。当時、九州大学の入局1年目でエースを任されていた小生は、接戦の中、鹿児島大学が誇る強力打線の中でも、バットの構えと面構えがひととき異彩を放っていた4番バッターを抑えるために、内角胸元いっぱい速球を投げ込み詰らせようとしてしました。しかし、球は速いがコントロールが定まらない急造ピッチャーだったため、手元が狂って2打席連続でお腹にぶつけてしまいました。このソフトボールの被害を受けられた方が、鹿児島大学の小椋正初代教授であったことは、大会終了後の懇親会で知ることになりました。存じ上げなかったこととは言え、あの時は誠に申し訳ありませんでした。

その小生が、小椋先生の後を継いで鹿児島大学小児歯科の第2代教授として教室を率いることになり、また、第24期の理事長になろうとは、小児歯科の世界は誠に不思議な縁で結ばれているものだと感じております。

九州地方会からは、これまで九州大学の中田 稔先生（第15期）と九州歯科大学の木村光孝先生（第17期）のお二人の初代教授が、会長（理事長）として日本小児歯科学会を導いて来られました。今後も九州地方会と親学会との協力関係が良好に維持され、将来にわたって小児期の医療や療育に関連する職種の方々との連携を深めながら、健全な口腔の育成を通して、子どもたちのより良い健康の増進が図られますことを祈念しております。

最後になりましたが、九州地方会は5大学とその関係者の緊密な協力を通して6巡目の大会運営を終えられ、この度めでたく創立30周年記念誌を発行される運びとなりました。

日本小児歯科学会 理事長として、また、九州地方会発足当時の学会員として、心よりお祝い申し上げます。

平成25年2月吉日